

「脳梗塞診療読本」(4版1刷)正誤表  
(2024年7月現在)

---

「脳梗塞診療読本」(4版1刷)をご購入いただきまして誠にありがとうございます。本書に以下の誤りがございましたので、ここに訂正・加筆させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

---

299頁23行目～300頁5行目までの下記の文章を削除

[2024/7/26]

a) 治療

前述したように脳卒中後てんかんに対する抗てんかん薬による予防的投与のエビデンスは乏しい。痙攣は遅発発作のリスクであること、一般的に若年者と比較して高齢者では初回発作後の再発率が高いことが報告されている。また、脳卒中後に遅発発作1回を認めた場合、10年間の再発作を71.5%に認めたとする報告がある<sup>11)</sup>。このような報告から1度の遅発発作を認めた場合も、特にハイリスクの高齢者に対しては抗てんかん薬による予防的投与を検討する。

脳卒中後てんかんに限らず、原則抗てんかん薬の投与は単剤で開始する。脳卒中の場合、患者背景として高齢者が考えられること、また部分発作を想定して、レベチラセタムやラモトリギン、ガバペンチンなどを考慮する。近年、脳卒中後てんかんに対しNaチャンネル遮断薬であるラコサミドの有用性と忍容性が報告されている<sup>12)</sup>。